

平成 21 年 11 月 6 日
日鐵住金溶接工業株式会社

弊社習志野工場敷地(グランド内)の土壌・地下水汚染に関するその後の状況について

1. 経緯

昨年12月25日、弊社習志野工場敷地(グランド内)の土壌・地下水汚染に関する調査結果および「飛散防止措置」等の緊急対策の件につきまして、千葉県と習志野市の環境部門へ報告するとともに弊社ホームページにてお知らせしました。その後、千葉県と習志野市からのご指導を仰ぎアドバイスをいただきながら、弊社習志野工場敷地内北西部にあるグランド内の土壌及び地下水を更に詳細に自主調査した結果が判明しましたので、ここに調査結果と、併せて弊社としての今後の対応方針をご報告致します。

なお、対策を完了するまでの間、引き続き、グランド使用を中断致しますので、事情をご理解賜りますようお願い申し上げます。

また、敷地境界近くにある複数の観測井戸で定期的に採水しておりますが、基準値を超過する有害物質は検出されておられません。

2. 調査結果の概要と今後の対応方針

(1) 調査結果の概要

昨年 12 月 25 日に弊社ホームページにてお知らせしましたとおり、習志野工場内の産業廃棄物や汚泥廃棄箇所近くの土壌や観測井戸にて環境基準を超えた六価クロム、ふっ素、鉛、ほう素および砒素等の有害物質が観測されました。

その後、詳細調査を実施し、地下水下流(埋設物箇所の南西敷地境界)の観測井戸において地下水質を複数回にわたり観測いたしましたが、環境基準を超過する値は検出されず、地下水汚染が敷地外へ拡大しているという状況は確認されませんでした[図 1,2]。

※ 図1:埋設箇所、敷地境界井戸[MW-4、5、6]などの位置及び流向平面図

※ 図2:敷地境界井戸[MW-4、5、6]の有害物質の分析結果

(2) 今後の対応方針

- ① 土壌・地下水汚染の原因と推定される埋設廃棄物から、雨水を通じての溶出を防止することを目的として、現在既に、埋設物上部の雨水遮水対策を実施済みであります。更に遮水機能を高めたシートの敷設を早急を実施することと致します。併せて現在実施中の既設井戸による地下水の有害物質についての定期的な分析・監視を継続してまいります。
- ② グランド機能の回復については、上記対策を確実に実施した上で、できるだけ早く開放可能な部分についての利用サービス再開を目指してまいります。

以上

本件に対するお問い合わせ先
習志野工場 管理グループ長 佐々木 勝行
Tel 047-479-1154

図2 敷地境界井戸の有害物質の分析結果

ふっ素（基準値0.8mg/L 定量下限値0.08mg/L）

	地下水の分析結果	環境基準値との比較	左記分析結果の平均値
MW-4	不検出～0.4mg/L	基準値以下	0.094mg/L
MW-5	不検出～0.4mg/L	基準値以下	0.081mg/L
MW-6	不検出～0.3mg/L	基準値以下	0.056mg/L

ほう素（基準値1mg/L 定量下限値0.1mg/L）

	地下水の分析結果	環境基準値との比較	左記分析結果の平均値
MW-4	不検出～0.20mg/L	基準値以下	0.06mg/L
MW-5	不検出～0.12mg/L	基準値以下	0.01mg/L
MW-6	不検出	基準値以下	不検出

六価クロム（基準値0.05mg/L 定量下限値0.005mg/L）

	地下水の分析結果	環境基準値との比較	左記分析結果の平均値
MW-4	不検出～0.013mg/L	基準値以下	0.0008mg/L
MW-5	不検出	基準値以下	不検出
MW-6	不検出～0.005mg/L	基準値以下	0.0003mg/L

注1. 平均値は、平成20年9月から平成21年9月までの、1年間の分析結果の平均値。

注2. 平均値の算出にあたっては、「不検出=0mg/L」として扱っている。

注3. MW-4、5、6のいずれの井戸において、鉛および砒素は不検出。

注4. 定量下限値以下は、不検出として扱っている。